

中学部 2年 美術科学習指導案

日 時 令和7年10月28日(火)
時 間 14:20~15:10
場 所 美術室
生 徒 男子2名 女子2名
指導者 小林 亮太

1 単元名 「メッセージを伝える」(光村図書 美術2・3)

2 単元の指導目標と評価規準

(1) 単元の指導目標

- 形や色彩などが見る人に与える効果を理解し、見通しをもって表す。(知識・技能)
- 伝えたい内容について考えたことをもとに主題を生み出し、効果的な表現の構想を練る。(思考・判断・表現)
- 自分の考えや見方を深めながら、デザインの構想を練ったり、作品を鑑賞したりする活動に主体的に取り組む。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 単元の評価規準

知 識 ・ 技 能	知：形や色彩、構成などが見る人に与える効果や、造形的な特徴をもとに、伝達のデザインを全体のイメージで捉えることを理解している。 技：意図的に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。
思考・判断・表現	発：メッセージを伝える目的や伝える相手、内容や社会との関わりなどから主題を生み出し、絵や文字などの組み合わせの効果や、わかりやすさと美しさの調和などを総合的に考え、表現の構想を練っている。 鑑：ポスターなど、メッセージを伝えるデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、効果的にメッセージを伝える工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や考え方を深めている。
主体的に学習に取り組む態度	態表：美術の造形活動の喜びを味わい、主体的に多くの人にメッセージが伝わるように工夫してデザインする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑：美術の造形活動の喜びを味わい、主体的に作品の調和のとれた美しさなどを感じ取り、効果的にメッセージを伝える工夫を考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 指導にあたって

(1) 生徒観について

本授業は、聴覚口話+手話付きスピーチクラスの生徒2名と、二言語クラスの生徒2名による計4名で構成されている。4名はいずれも幼稚部からの長い付き合いがあり、互いの個性やコミュニケーションスタイルをよく理解し合っている。

全員が美術や創作活動を特に好むわけではないが、与えられた課題には素直に取り組む姿勢を見せている。一方で、自発的にアイデアを出したり、試行錯誤を重ねたり、造形的な表現にこだわる場面は少なく、創造的な活動に対してはやや受動的な傾向が見られる。

作品を通じた交流を通して、自己表現の幅を広げるとともに、他者理解や協働の力を育むことをねらいたい。

(2) 教材観について

この教材は、「多くの人にメッセージを効果的に伝えるにはどうすればよいか」を考え、表現する題材である。生徒自身にとって身近な課題である「学校の健康向上」をテーマに設定し、ポスターの制作を行う。形や色彩の効果を生かして、わかりやすさや美しさ等を考えて表現の構想を練る能力や、メッセージを効果的に伝えるために、用具や表現方法などの特性を生かし、創造的に表す能力を育むことをねらいとする。また、作品完成後には、自分や友達の作品を鑑賞し、効果的にメッセージを伝える工夫を感じ取り、創造的な表現に対する理解を深めさせたい。

(3) 指導観について

制作にあたっては、まず「誰に、何を伝えたいのか」を具体的に考えさせる。伝える相手のイメージを明確にするために、年齢や性別、性格、その人が抱える課題などを具体的に設定させる。その後、その相手にメッセージを伝えるために相応しい表現を考えさせたい。

画面の配色については、「キャッチコピーが視認しやすいこと」という点は必ず意識させたい。背景色と文字色の対比に注目させ、見やすさを重視した配色を考えさせる。

作品鑑賞の際には、生徒自身が工夫したところ等を発表し、その後、友達から感想等を言ってもらう活動を設ける。教師による講評では、明らかにねらいとズレている点については、生徒に誤解を与えないように明確に指摘することを心がける。

(4) グループ研究との関連について

ア 研究主題「主体的・対話的で深い学びを実現し、社会的自立に必要な力を育てる指導法の研究」

イ 取り組みについて

本授業では、将来生徒が社会で自立し、主体的に生きていくために必要な力を育成することを目指すため、特に、以下の視点を重視して指導にあたる。

○授業の質の向上（主体的・対話的で深い学びを実現）

・個別最適な学びの実現

生徒一人ひとりの個性を尊重し、それぞれが自分に合ったテーマを選択できるようにすることで、主体的な学びを促進する。

表現活動や鑑賞の活動を通して、人によって多様な見方や考え方があることを知り、自己理解と他者理解を促す。

○セルフ・アドボカシーの育成（社会的自立）

・生徒の自己理解の深化

生徒が自分自身の考えや価値観を理解し、他者と積極的に共有できる力を育むことを目指す。作品について自分の工夫や思いを言語化し、友達と意見を交換することで、互いの

違いを前向きに受け止め、自己理解と他者理解を同時に深めていく。

4 単元の指導

計画（10時間計画／本時：10時間目）

時	学習活動	学習内容	評価
1 2	伝えたいメッセージを決める	○多数のキャッチコピーから1つ選択する。 ○伝えたい相手を具体的に想像し明確にする。	知・発・ 態表
3 4	アイデアスケッチをする	○ネット等で資料を探しながら、形や色、構 図などの構想を練る。	知・発・ 態表・態鑑
5 ┆ 9	表現方法を工夫して表す	○メッセージをより効果的に伝えられるよ う、表現方法を意図に応じて選択して表す	知・技・ 発・態表
10 (本 時)	鑑賞する	○完成した自分や友達の作品を鑑賞し、効果 的にメッセージを伝える工夫を感じ取り、 創造的な表現に対する理解を深める。 ○実際にポスターを校内掲示し、美術と社会 とのつながりを実感する。	知・鑑 態鑑

5 本時の目標

- (1) 作品に込められたメッセージや構成の工夫について、基本的な視点や要素を理解する（知識）
- (2) 友達の作品を鑑賞し、表現の工夫や伝えたい内容に気づき、感じ取ることができる（鑑賞）
- (3) 友達の作品を尊重し、真剣に鑑賞しようとする姿勢をもち、美術を通じた交流や社会とのつながりを前向きに受け止めようとする（鑑賞に対する態度）

6 本時の展開

過程	学習活動・学習内容	指導上の留意点
	○活動、●指示、△発問、▲補助発問、・予想される生徒の反応	■留意点、□評価
導入 (5分)	○前時の学習を振り返る。 △ポスターが完成しましたね。学習発表会の作品展示はどうでしたか。 ○本日の活動内容を説明する。 ●作品が完成したので、本日は鑑賞をします。	

<p>展開 (40分)</p>	<p>○自分の作品について振り返る。 ●自分の作品について説明します。 ・どんなメッセージを伝えたかったのか ・伝えたい相手はだれか ・工夫できたところは○○ などを考えてください。</p> <p>○自分の作品について発表する／友達の仕事の説明を聞き鑑賞する △作品について感想はありますか。 ・キャッチコピーが見やすい。 ・イラストが可愛い ・上手。</p> <p>○振り返りシートに記入する。</p> <p>○ポスターを校内に貼りにいく。 ●ポスター制作を始める前に、メッセージを伝えたい具体的な相手をイメージしたと思います。それを踏まえて、作ったポスターを校内に掲示しましょう。</p>	<p>□メッセージを効果的に伝えるための構成の工夫ができたか。 □表現の工夫や伝えたい内容に気づき、感じ取ることができたか。 ■良いところを見つけるよう伝える。 ■明らかに良くないポイントは、はっきりと伝える。</p> <p>□記入された内容や制作の過程、完成した作品から、評価を行う。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>○学習を振り返る △ポスターは良い場所に貼ることはできましたか。 ○次回の予習を行う。</p>	<p>■次時への見通しをもたせる。</p>

7 本時の評価

- (1) 作品に込められたメッセージや構成の工夫について、基本的な視点や要素を理解できた (知識)
- (2) 友達の作品を鑑賞し、表現の工夫や伝えたい内容に気づき、感じ取ることができた (鑑賞)
- (3) 友達の作品を尊重し、真剣に鑑賞しようとする姿勢をもち、美術を通じた交流や社会とのつながりを前向きに受け止められた (鑑賞に対する態度)

目標：集団生活の中で合意形成を図るために大切な方法を学び、実生活に生かすことができる。

1	合意形成の概念と合意形成を図ることができる話し合いの方法
	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成とは何か ・合意形成を図ることのできる話し合いのとはどのようなものか
2	自己理解・他者理解のためのコミュニケーションタイプ診断
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分はどちらかといえば積極的に発言するタイプ、どちらかといえば同調するタイプかを診断する
3	合意形成の実践「コンセンサスゲーム」
	<ul style="list-style-type: none"> ・積極タイプと同調タイプの生徒を意図的に組み合わせたチームで自己理解・他者理解を意識しながら合意形成を図る

2学年 自立活動「合意形成をはかるためには」 指導案

単 元	人間関係の形成	担 当	MT：板垣 ST：UDトーク編集（ ）
指導計画	1 時間		
本時のねらい	集団生活の中で合意形成を図るために大切な方法を学び、実生活に生かすことができる。 区分（3）人間関係の形成 項目 <ul style="list-style-type: none"> ①他者とのかかわりの基礎に関すること ②他者の意図や感情の理解に関すること ③自己の理解と行動の調整に関すること ④集団への参加の基礎に関すること 		
時 間	学 習 内 容	留 意 事 項	
8：50	1 あいさつ 2 本時の説明 3 既習事項の振り返り（R6自立活動 アサーション）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒はいすを持参する。 ・プロジェクター、PC等の準備 	
8：55	3 本時の学習 ○学習のゴールを確認する。 固定観念で行動してしまうことがあることを理解し、建設的な話し合いができる。 ○演習1 課題意識をもたせる。（固定観念の体験） エピソード	<ul style="list-style-type: none"> ・PPを使用する。 	

	<p>「ある人の話をします。</p> <p>この人はある人と暮らしていました。一緒に暮らしているその人は、その人は歩くことができません。話すことも、もちろん手話もできません。不満があると泣き叫び、物を投げつけたりします。ご飯は自分で食べられず、嫌なときは吐き出します。トイレも自分では行けず、そのままにしています。</p> <p>ある人はそれでも幸せだといいます。それはなぜでしょう。」</p> <p>発表</p> <p>一つの考えにしばられてしまうこと（決めつけ）があることを理解し、集団生活の中では逆の立場に立って考えることが必要であることを確認する。</p> <p>また、聴覚障がいによる情報の足りなさ、言葉の足りなさから十分に伝え合っていない現状があることをおさえる。</p>	<p>数名に指名する</p>
9:05	<p>○演習2 具体的場面の対応</p> <p>○背景を考える：高龔祭のパフォーマンスでダンスに決まったが、男子と女子の間に溝ができる。</p>	<p>昨年度の高龔祭の動画を活用する</p>
9:08	<p>【ペア学習①】</p> <p>○なぜ溝ができてしまったのかを話し合う。</p>	
9:11	<p>【グループ学習①】</p> <p>話し合った内容を共有する</p>	
9:16	<p>【グループ学習②】</p> <p>○お互いどうすべきだったかを話し合う。</p>	
9:24	<p>グループの代表1名を決めて発表</p>	
9:30	<p>【個学習】</p> <p>合意形成を図るとき（何かを決めるとき）に必要なことを考える。</p>	<p>ワークシートに記入</p>
9:34	<p>発表</p>	
9:37	<p>まとめ</p> <p>○合意形成を図るために固定観念にとらわれるのではなく、お互い伝え合うこと、確認し合うことが大事であることをおさえる。</p>	

	挨拶	
--	----	--

2学年 自立活動「合意形成をはかるためには②」 指導案

単 元	人間関係の形成②	担 当	MT：板垣 ST：UDトーク編集（ ）
指導計画	1 時間		
時 間	学 習 内 容	留 意 事 項	
8：50	1 あいさつ 2 本時の説明 3 前時の振り返り 話し合った内容と合意形成をはかることができる話し合いだったかを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター、PC等の準備 ・板書 	
8：57	4 本時の学習 ○学習のゴールを確認する。 自分の課題を把握し、合意形成を図るために改善していかなければいけないことを明確にする。 5 ○演習1 自分は何タイプ？（自己理解） 当てはまるコーンの場所に移動する はい…赤 いいえ…青 移動し終わったらとワークシートにチェックを入れるようにする 全20問が終了したら、チェック項目を集計し、自分のタイプを記載する。	<ul style="list-style-type: none"> ・PPを使用する。 三角コーンを準備する（赤・青） チェックリストの配布 	
9：12	【グループ学習】 同じタイプでグループを作り、そのタイプの課題と克服するために意識しなければいけないことを話し合う。3・4人のグループになるよう指示する。 <u>合意形成を図るために必要なスキルという観点からずれないようにする</u>		
9：20	アグレッシブ・ノンアサーティブ ○共有する	板書	
9：25	○演習 高聳祭の学年係分担 活動計画を立てよう	計画表の配布	

	<p>模擬店チーム</p> <p>パフォーマンスチーム</p>	
9:37	<p>まとめ</p> <p>○自分の課題を把握し、合意形成を図るために改善していかなければいけないことを明確にし、克服しようと努力することでよりよい人間関係を形成することができる。</p> <p>○振り返りワークシートの提出の告知をする</p> <p>挨拶</p>	

2学年 自立活動「合意形成をはかるためには③」 指導案

単 元	人間関係の形成③	担 当	MT：板垣 ST：UDトーク編集（ ）
時 間	学 習 内 容	留 意 事 項	
8:50	<p>1 あいさつ</p> <p>2 本時の説明</p> <p>3 前時の振り返り</p> <p>話し合った内容と合意形成をはかることができる話し合いだったかを振り返る</p> <p>*15日（木）の特別活動で、高龔祭の全体係決め</p> <p>庶務3名の名前が入っていたが、終わり際に別の1名が「自分庶務で」と言い、もともと希望していたが夕方祭りに移動した場面を取り上げる。</p> <p>取り上げた意図（疑問が出た時が合意形成のチャンス）を明確に示し、「申し訳ない」「我慢すればよい」などで終わらないようにする。</p>	<p>・プロジェクター、PC等の準備</p> <p>・板書</p>	
9:00	<p>4 本時の学習</p> <p>○学習のゴールを確認する。</p> <p>前回の自立活動で整理した自己の課題を意識しながら、合意形成を目指すことができる。</p> <p>○演習</p> <p>コンセンサスゲーム</p> <p>「砂漠からの脱出」</p>	<p>・PPを使用する。</p>	

<p>9:05</p> <p>9:15</p> <p>9:30</p> <p>9:35</p>	<p>○ゲームの説明</p> <p>砂漠に不時着した飛行機に乗っていた乗客たちが、生き残るために飛行機にあった12のアイテムを駆使し、近くの街までたどり着くことを目指すゲームです。不時着はあまりに突然に起きた出来事だったので、今の時刻もわかりません。</p> <p>分かっているのは以下の3点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到着予定地からは約100km外れてしまった。 ・もっとも近い街は約100km南南西にある ・不時着した地域の気温は43度、地表近くでは50度にもなる。 <p>使用できる十二個のアイテムから生き延びるために必要なものの優先順位を考える。</p> <p>○個人で考える</p> <p>○グループとしての解答を話し合う。</p> <p>○発表</p> <p>○模範解答発表</p>	<p>チェックリストの配布</p> <p>板書</p>
<p>9:37</p>	<p>まとめ</p> <p>○これまでの活動を振り返り今後の学習や生活に生かすことを意識づける。</p> <p>○振り返りワークシートの提出の告知をする</p> <p>挨拶</p>	

【 授業の振り返り 】

1時間目：合意形成の概念と合意形成を図ることができる話し合いの方法

(ア)学習の流れ

エピソードを通して、先入観による誤解に気づかせ、決めつけの危険性を体感する。一つの考えに縛られず、他者の立場に立って考えることの必要性、また聴覚障がい者の情報伝達の難しさについて理解を深める。*具体的場面を取り上げ男女の間に溝ができた背景を考察し、対立の原因と対策を話し合う。 題材として昨年度学校祭で実際に演じたシナリオ（学校祭の発表を巡って起きた対立と和解）を活用した。ペアで話した内容をグループ内で共有し、共通点や違いを見つける。お互いがどう対応すべきだったかをグループで話し合い、改善策を探る。

(イ)生徒のワークシートより

【*具体的場面を取り上げ男女の間に溝ができた背景を考察。(なぜ溝ができてしまったのか。)*】

- ・納得するまでの話し合いができていなかった。(お互いに)

- ・男女の劇に対する気持ちの問題
- ・女子が半ば強引に決定していたから。
- ・男子は女子の悪い面しか見ていない。女子は男子の悪い面しか見ていない。
- ・距離感がうまくつかめなくて最終的に分かれ しまった。

【合意形成を図るときに大切なことは何か。今後の生活で自分が心がけることは何か。】

- ・いつも冷静に考える。
- ・一方的に決めるのではなく、みんなの意見を聞き、その妥協案を考えみんなが納得できるようにする。
- ・すぐに否定しない。
- ・説明力（言葉）が足りないとすれ違いが起こるので、説明力を身につける。

(ウ) 評価

全体的に積極的に話し合い活動をしている様子が見られた。中には口論のようになっていたチームもあったが、仲介役を担った生徒もいた。「お互いの悪い面しか見えていない」という意見を全体共有することで、「この人はこうだから」という決めつけになっていることを意識化させ、固定観念を自分事として深めさせるべきであった。

まとめでは、今後どのような姿勢が大切かを考えさせることにより、より日常生活で活用できる視点となることを期待し、設問として掲げたが、本時の振り返りは、合意形成を図る話し合いができたか、できた場合、できなかった場合の原因を考えさせることであった。

2 時間目：自己理解・他者理解のためのコミュニケーションタイプ診断

(ア) 学習の流れ

自分のコミュニケーション傾向を知ることで、合意形成における自分の課題を自覚する。教室内に赤と青のコーンを配置（赤＝はい、青＝いいえ）指導者が質問を1問ずつ読み上げ、生徒は自分の答えに合ったコーンへ移動各問の答えをワークシートにチェック全20問終了後、チェック数を集計して自分のタイプを判定（積極タイプ/同調タイプ）タイプ別の課題を共有・分析する。

(イ) 生徒のワークシートより

積極タイプの課題と解決策

課題：固定観念が強い。

話し合いの目的から外れてしまう。

解決策：客観的な視点をもつ。

冷静。否定から入らない。

同調タイプの課題と解決策（生徒の実態の表 B・E・F・G・H・I・K・M）

課題：自分から積極的に話しかけることができない。自分が嫌だなと思うことにチャレンジできない。

解決策：自信をもって言う。積極的に言う。

自分の考えをためない。相手の意見を尊重する。

(ウ) 評価

それぞれが個々の課題に向き合うことができた。同じタイプの仲間が集まることで、課題を自覚し、解決策を話し合い共感することができた。また、自分たちのよさを集団でどのように生かすことができるかについて考えをもつことができた。一方で、指導者は充実した話し合いができたことについて具体的に講評すべきであった。

3 時間目：合意形成の実践「コンセンサスゲーム」

(ア) 学習の流れ

前回の自立活動で整理した「自己の課題」を意識しながら、合意形成の力を実践の中で育てる。「コンセンサスゲーム ～砂漠からの脱出～

機内に残された 12 のアイテムのうち、生き延びるために重要な順番（1 位～12 位）を話し合って決める。まず、個での思考し、グループ協議を行う。

(イ) 生徒のワークシートより

- ・いつも話し合いの時は消極的だったから今回の話し合いではたくさん意見を出すことができてよかった。
- ・たくさん話し合っていたので時間があっという間に終わってしまった。今回は冷静に話し合うことができたと思う。

(ウ) 評価

全員の意見を聞くこと、納得できる理由を言葉にすることを意識しながら、自分の課題（主張しすぎる／遠慮して発言しないなど）を思い出しながら、発言できている様子が見られた。

一方、課題としては、時間設定の甘さが挙げられる。合意形成を図るための話し合いや、各グループで合意した結果について全体で共有する時間が必要であった。

生活情報（家庭）科学習指導案

日 時 令和7年9月30日5～6校時
場 所 被服室1教室
対 象 生活情報科2年選択3名
指導者 斉藤 千絵

1 単元名 「洋服の製作」（「ファッション造形基礎」実教出版）

2 単元設定の理由

(1) 単元について [単元（題材）観]

この単元では、洋服の製作に関する基礎・基本的な理論と技術を扱い、計画に従って洋服を能率的に製作することを目的としている。洋服の製作に関する採寸や型紙の基本、デザインと材料の選択、裁断し縫製、仕上げに至る中で日常に身近な衣生活などに関する課題を発見し、創意工夫やアイデアを生かしてよりよい物を作り出すことによって課題を解決する力やよりよい物を製作するために、他者協働し計画に従って能動的に製作する態度を養いたい。

本グループは、全員縫製作業に苦手意識はないが、細やかな部分まで丁寧に積極的に作業することができる生徒と、大雑把に全体を把握し、細かな作業や道具の使用について課題がある生徒がおり、学習内容の理解や定着、作品の仕上がりに違いがある。そのため、一人ひとりの実態に合わせて、それぞれの目標が達成できるように個別指導や視覚的教材や師範を通して製作手順や評価基準を理解させ、技術を身に付けさせるなど工夫して指導している【主】。

また、実習を通して生徒が深く考え、実習を通して発見した課題やその解決方法など生徒自身の言葉で発表や説明できるように、考える時間や発表する時間を確保したい。そして、作品製作や振り返りの中で生徒同士が学び合えるような展開【対】【協働】を目指したい。

(2) 生徒・学生の実態について [生徒・学生観]

対象生徒は、生活情報科2年生学科内選択3名である。物づくりに関心が高く、手芸やファッションについて興味関心があり、裁縫の基礎基本的技術をある程度習得している。また、常に教員の話に注意深く聞いており、懸命に作品製作に取り組む力がある。一方で、一人ひとりの障がいの状態や教育的ニーズが多様であることから、単元の目標及び内容は同一のものとしつつ、個別指導や放課後指導、タブレット端末による動画による学びや振り返り【個】、個別最適化された指導の手立てを準備していく必要がある。

(3) 本授業における適切な指導及び必要な支援の考え方について [指導観]

この科目に関しては、学科内選択者単位で授業を展開している。生活情報科では、「自立した生活の実現に必要な職業観とその知識・技能の習得を図るとともにコミュニケーション能力向上を目指し、多様化する社会へ適応できる力を育てる」ことを目標に、学習内容を理解させ、日常生活と結びつけて豊かな衣生活を送ることができるように、対話的な学びを大切にしながら授業の展開を目指している【深】。

指導内容や作品製作内容の精選については、年度初めに行っているが、実際に指導しながら実態に応じて柔軟に扱っている。実習では、実際に目の前で師範・個別対応できるように指導内容や実習進度を工夫し支援を行っている。その結果、個別の目標が明確になり、生徒は見通しをもって作品製作に取り組むことができるようになってきている。

3 単元の見目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
洋服製作の基礎について理解し、関連する技術を身につけることができる。	洋服製作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。また、作品の発表などを通して、製作への意欲を高めることができる。	洋服製作の基礎について自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

4 指導計画 (30時間計画 本時 1～2 / 30)

時数	学習活動	指導及び支援
1、2 (本時)	ハーフパンツの製作について・採寸	洋服の着心地について理解を深め、採寸し、ハーフパンツ製作の見通しを持たせる。
3、4	型紙・製作① (前ズボン)	型紙とは何か、型紙の製図方法を理解する。
5、6	製図② (後ろズボン) 製図③	自分の体に合ったハーフパンツの製図を作成し、完成させ、布に転写する。
7、8	地直しとは・裁断①	布の地直しを理解し、地直しした後裁断する。
9、10	裁断②・裁断③	すべてのパーツを裁断し印付けする。
11、12	本縫い①②	本縫いのための見通しを持ち、技術練習、製作する。
13、14	本縫い③④	ポケットを作成し、縫い付ける練習をする。
15、16	本縫い⑤⑥	ロックミシンを使用して全体の布端処理をする。
17、18	本縫い⑦⑧	ポケットつけ、脇と股下縫いの練習及び実践。
19、20	本縫い⑨⑩	脇股下縫いの練習及び実践。
21、22	本縫い⑪⑫	ハーフパンツのすそを始末する。
23、24	本縫い⑬⑭	ウエストを始末する。
25、26	仕上げ	ウエストへゴム通しや糸くずの始末、アイロンがけなどを行う。
27、28	コーディネート	製作作品とコーディネートを考える。
29、30	発表会	考えたコーディネートを着用し、発表会を行う。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①ハーフパンツに求められる着心地について理解を深め、製作の見通しを持つことができる。
- ②体にあった洋服を製作するため、採寸することができる。
- ③自分自身の作品製作について、進度目標や学習内容について振り返り考察することができる。

(2) 学習指導案

過程	指導事項	学習内容	指導上の配慮事項	教材・教具
導入 (5分)		・ 本時の学習内容を知る。	・ 持ち物確認 (PCやタブレット) し、不具合がある場合や忘れた場合は貸出する。	

展開① (45分)		<ul style="list-style-type: none"> ・着心地の良い洋服について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が着てみたいハーフパンツから、着心地のよい洋服について理解を深められるよう発問する。 ・「ふきだしくん」ツールを用いて意見を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TV ・パソコン ・ホワイトボード
展開② (35分)		<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフパンツ製作に必要な採寸方法について理解し、行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズを協力して採寸し、学習プリントに記入する。(プライバシーに配慮し、生徒の合意を得てから進める) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリント ・採寸用メジャー
整理 (15分)		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を振り返り学習プリントに記録し、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習の進捗について進捗表を確認させて見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗表プリント

(4) 評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・着心地の良い洋服について理解を深める。 ・洋服を製作するための採寸を正しく行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着心地のよいハーフパンツ製作のために体験的に考えようとする。 ・洋服製作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洋服製作について自ら学び、見通しをもって計画に従い、製作できるよう取り組むことができる。

教科:生活情報科

日付: 9/ 30 (火) 5・6 時間目

研究授業 部内反省

1 題材について

研究テーマが幅広く、どこに重きを置いて指導したらいいのか戸惑いながら、とりあえず「ICTを活用すること」、「対話的な学びを通しての言語活動」に重点を置いて題材を考えた。

布地の素材についてわかりやすい。

生徒が普段着る服を選んだのはよい。

小物作り等の経験をし、難易度的には適切である。

ハーフパンツ製作については、立体構成を学習する上で取りかかりやすい題材である。

今後の展開に関していうと、インターネット等においても型紙は手に入りやすくなっているため、採寸して自分のサイズを知り、サイズにあった型紙を使用し(必要に応じて補正し)、製作する、でもよいのではないかな。

2 指導案について

ほぼ予定通りに進んでおり、生徒の実態に合わせた無理のない進度である。

「体にあった洋服を製作するため、採寸することができる。」とあるので、ジャージとTシャツで採寸するのがよかったのではないかな。

生徒・学生の実態まで詳細に記載されており、大変勉強になった。

3 教材・教具について

重点の学習活動の充実を考えるあまり、「着心地のいい衣服」について、体験的に学習できる準備が足りていなかったと思う。実際に肌触りを試すことができるような布を用意するなどさらに工夫できたと反省している。

パワーポイント作りに生徒の興味・関心が持てるよう、の工夫が随所にあった。

スライドを印刷したプリントに記入するのではなく、別にプリントを用意した方がよいのではないかな。

生徒が授業を振り返るとき1枚のプリントの表が確認しやすいと思う。

スライドだけではなく、教科書の活用も必要ではないかな。

「収縮性のある素材と収縮性のない素材」、「触り心地の違う素材」、「薄手の素材と厚手の素材」など、

学校にある生地を提示し、実際に触れてみる機会があっても良かったかもしれない。

体験学習の「採寸」は、休み時間のうちにTシャツとハーフパンツ?に着替えさせて、実施しても良かったかもしれない。「今回の数値は(制服を着用している)正確ではない」という締め言葉で終わってしまったのが惜しい気がした。

4 学習活動の内容について

ハーフパンツについて、生地から考え製図も行う事で自分サイズのものを作成するという目的にあって流れがとても良かった。

着心地の良い洋服とは、着心地の良い洋服を作るためにはどのようなことを工夫したら良いのかという課題を意識させて採寸へと繋がっていき、見通しを持てるような展開になっていた。

前半で理論学習、後半で体験学習とパターンを変えて飽きさせない内容だったと思う。

理論学習の中で、

- ・「着心地」と「着こなし」が混同している場面があったかもしれない。
- ・結婚式に出席する際に「白」を着用しない理由は、「主役を引き立てるため」が正解か?

- ・「腰たけ」「腰囲」が混同している場面があったかもしれない。
- ・「布の色や柄の紹介」のところで、「柄あわせ」を紹介してもいいかもしれない。
→とは言っても、いつもと違う環境の中での授業なので、私が授業者でも同様の間違いをしてしまいうる。

体験学習の「採寸」は、生徒数3名なので、「採寸される人」「採寸者」「サブ採寸者(記録者)」でも良かったかもしれない。

5 指導上の手立ての工夫について

生徒同士での採寸しあうのが良かった。

クラスルームを使用してふきだしくんのツールでの意見がとても良かった。

スライド、ICTの活用など随所に工夫がみられた。

視線を教師の方に向かせてから、ややゆっくり話し、生徒が聞き逃すことがないようにされていた。

細やかな声かけ、資料作成が行われていたように思う。

6 言語活動について

普段何気なく使う「着心地のいい」という言葉を改めて生徒が言語化できるよう、PP資料を配布するタイミングや授業展開を含め言語活動が充実化できるよう工夫した。イラストに引っ張られた解答や特定の生徒の発言をうまく軌道修正することができず反省点が残る。

質問に対する答えや、感想等を自然に引き出していた。

斉藤先生の読み取り力が非常に高く、結果として生徒が安心して、意見を述べている雰囲気を感じた。

7 個別最適な学び(ICTの活用等)について

「ふきだしくん」という意見発表ツールを使って意見交流を試みた。言葉の指導が必要な状態で、意味をくみ取る必要がある状態ではあるものの、生徒の考えがリアルタイムで反映することができ、生徒が実態をつかみやすいと感じた。一方で、言葉の学習が必要な状況には適さないと考えている。振り返りや思考をまとめる際などICT活用のみに偏らず、文字を書いて漢字や文字を丁寧に書く指導をしたい。

ふきだしくんの利用は生徒がわかりやすかった。

「ふきだしくん」というツールがあることを知った。リアルタイムに全員の意見を確認することができてとても良いと思った。

意見の集約を行う際に「ふきだしくん」を活用することについて、ICTを積極的に活用しようとする姿勢を大いに見習いたいと思った。「ふきだしくん」の利用に関しては、大勢の意見を一齐に可視化できるツールとしての意味合いが強く、そもそも少人数授業で展開される本校での授業に適切か否か迷うところもあるが、対話による深い学びを重点とするならなおのこと、文字入力という点では書記日本語を学習する機会のひとつとして効果的な部分もあるように感じた。

8 協働的な学び(複式、集団での学びあい)について

実習中心の授業展開の際は、お互いに作業工程を確認し合うよう指導している。授業の際には「能率的な作業」について指導している。

採寸をする際、採寸を行う人、記録する人など協力して行うのがよかった。

教師の指示を聞いて、協力しスムーズに作業していた。

前半では着心地の良い服についての意見を出し合い、後半では互いに採寸し合うなど協働的な学びが実践されていたように思う。

9 合理的配慮について

問題なかった。

全体的に早口にならない説明・手話が実践されていた。また、図表、写真やイラストが盛り込まれたパワーポイントなど視覚情報も準備されており、生徒が理解しやすく工夫されていたように思う。

小学部 1 年重複学級 国語科 学習指導案

日時：令和 7 年 11 月 18 日（火）3 校時

場所：小学部 1 年 2 組教室

生徒：男子 1 名

指導者：内藤 考哉

1 単元名 「かたかなをみつけよう（こくご 1 上巻 かざぐるま 光村図書）」
「ことばのクイズ」「かたかなの練習」

2 単元目標 「かたかなをみつけよう」

○「かたかなをみつけよう」	○「ことばのクイズ」	○「かたかなの練習」
<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばのクイズを通して、語彙を増やすことができる。 ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名を書いたり、読んだりすることができる。 ・学習した片仮名が使われている言葉を考えたり、手話で表現したりすることができる。

3 単元の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「かたかなをみつけよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。
「ことばのクイズ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばのクイズを通して、語彙を増やしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて答えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にクイズに取り組み、言葉を覚えようとしたり、話をしようとしたりしている。
「かたかなの練習」	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名を書いたり、読んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した片仮名が使われている言葉を考えたり、手話で表現したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名を丁寧に書こうとしている。

4 単元の指導にあたって

(1) グループ研究テーマとの関連について

ICTを活用した授業作りの考察 ～児童一人ひとりのICT活用能力の向上、豊かな学びを目指して～
--

GIGA スクール構想により、子どもたちを取り巻く教育環境は大きく変化した。聾学校においても、子ども一人に一台ずつのタブレット端末を手にするようになり、学習活動の中に ICT が急速に浸透し始めている。本校小学部においても例外ではない。タブレット端末や周辺機器といったハード面が進化・導入される一方で、それらの活用方法や指導法といったソフト面が大きな課題となっている。

小学部ではこのような流れを受け、新たな学習のツールとしての「ICT を活用した授業作り」に取り組む。授業実践から具体的な ICT を活用した授業を検証し、子どもと指導者それぞれの ICT 活用能力の向上だけではなく、子どもたちにとっての豊かな学び（深い学び）につなげていくことを目指す。

本児は、家庭で保護者のスマホを使用し、動画を見たり、ゲームをしたりしている。そのため、タブレットの簡単な操作（タップやズームなど）をすることができる。また、タブレットを使用することに興味・関心をもっており、学習の際にタブレットを使用する機会があると、意欲的に準備し、学習に取り組んでいる。しかし、興味・関心が高いが故に、指導者のタブレットを操作しようとしてしまうことなどがある。

(2) 単元について

本学級は、重複学級である。国語科の指導のため、部分的に教科書を使用している。しかし、児童の実態に合わせて指導者の準備した学習内容や教材も使用しているため、自立活動の一面もある。本単元は、教科書の単元「かたかなをみつけよう」と、児童の実態に合わせて指導者が作成した「ことばのクイズ」、インターネットの無料プリント「かたかな練習」を行う。

本児は、家庭や幼稚部での積み重ねもあり、入学前から平仮名を読んだり、書いたりすることができた。また、小学部で改めて平仮名を学習し、「はらい」や「はね」などを意識して字を書けるようになってきた。片仮名については、朝学習でなぞり書きを行ったり、宿題で単語の書き取りをしたりして、片仮名に慣れることができるようにしている。しかし、まだ読めない字があったり、「シ」と「ツ」などの似ている字の判別が付かなかったりなどする。本単元を通して、改めて片仮名を学習し、本児の片仮名を読み書きする能力の向上を図り、身の回りにある片仮名の言葉に興味をもつきっかけとしたい。そして、片仮名を身に付けることにより、本児の言葉がより豊かなものとなるように指導する。

(3) 学級の実態

本学級は、男子1名の1人学級であり、重複学級である。本児は、聴覚障害と軽度知的障害を併せ持っている。両耳に人工内耳を装着している。しかし、聴力的には聞こえていると思われるが、呼びかけに反応がなかったり、発音が不明瞭であったりする。そのため、コミュニケーションモードは、手話と音声を併用し、必要に応じて身振りや手指表現などを活用している。また、語彙が非常に少なく、発音できているように思われる単語についても、音韻数が合っていなかったり、書いたり指文字で表現したりできないことがある。その都度、音韻数を確認し、口声模倣を促したり、書字したりして確認している。

本児は、非常に明るい性格をしており、誰にでも物怖じせず話しかけることができ、他者とコミュニケーションをとることを好む。一方で、自分の伝えたいことが相手に伝わらないと、いつもより語気を強くして否定したり、涙を流したりすることもある。自分の伝えたいことを表現するための語彙（手話単語も含め）や表現方法（書くことや手話表現も含め）を身に付けることが課題である。

学習は、どの教科も意欲的に取り組んでいる。しかし、気になったものを目で追ってしまったり、学習の途中で集中が切れてしまうことがあるため、ノートを書く際は指導者が記入箇所を指さして言葉掛けをしたり、余計な部分を隠したりすることもある。また、衝動的に立ち上がってしまうなどの多動的な一面もある。その場合、指導者から注意されたり、促されたりすると正すことができる。

5 単元の指導計画「かたかなをみつけよう」

時数	学習内容
1	・本文を読み、片仮名を読む練習をする。教科書の片仮名をノートに書く練習をする。
2 本時	・教室内の片仮名を探し、ノートに書く。片仮名を使って文を作る。
3	・家の中にある片仮名を振り返る。片仮名を使って文を作る。「やってみよう」を行う。

6 教科における児童の実態（資料なし）

7 本時の目標

○「かたかなをみつけよう」	○「ことばのクイズ」	○「かたかなの練習」
・身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書くことができる。	・積極的にクイズに取り組み、言葉を覚えようとしたり、話をしようとしたりできる。	・片仮名を書いたり、読んだりすることができる。

8 本時の展開

	学習活動 ▽発問 ○指示 ・活動	・児童の活動 ○予想される児童の発言	○留意点、支援口評価 * ICT
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする。 学習内容を伝える。 「今日は、ことばのクイズ、片仮名の練習、片仮名の勉強の続きをします」 宿題の丸付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒にあいさつをする。 本時の学習内容の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童にしっかりと発音させる。 ○適宜、字を直させたり、発音や意味を確認したりする。
	<ul style="list-style-type: none"> 「ことばのクイズ」 ○ことばのクイズをするので、机を動かしてください。 ▽「これはどれですか」 ▽これは、何をする物ですか。他にも、持っているか、経験したことはあるかなど発問する。 ○言ってみましょう。 「〜〜」 ・全部で5問行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机を除けて、ノートパソコンの前に移動する。 ○「これです（パソコンの写真を指さす）」 ○〜〜〜をするときに使います。 ○わかりません。 ・教師の後に発音する。 「〜〜」 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が言葉を読み、3択の中から答えを探す。 □積極的にクイズに取り組み、言葉を覚えようとしたり、話をしようとしたりできる。 * パソコンにクイズを映す。（指導者が操作） ○適宜、発音指導を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 「かたかなの練習」 ○片仮名の練習をします。机を戻して、iPad を準備してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元の席に戻り、教室後方の長机から iPad を持ってくる。 ・iPad を立ち上げ、AirDrop を受 	<ul style="list-style-type: none"> * iPad 使用（児童が AirDrop の

<p>展開 35分</p>	<p>○片仮名の練習データを送りません。準備してください。 データを送る。 ○今日は、「○と○」を練習します。ペンでなぞり書きしてください。 ○プリントに載っている「○」から始まる言葉を言いましょう。</p>	<p>け取る準備をする。データを受け取る。 ・Apple ペンシルで、なぞり書きをする。 ・プリントの言葉を言う。</p>	<p>操作) * iPad 使用 (児童が Apple ペンシルの操作) ○適宜、発音指導を行う。 ○適宜、iPad を使い、児童とイメージの共有を図る。 □片仮名を書いたり、読んだりすることができる。</p>
	<p>・「かたかなをみつけよう」 ○教科書110 ページを開いてください。 ・前時の振り返りを行う。 ○110 ページを読みましょう。 ○今日は、片仮名を探して、ノートにいっぱい書きます。 ○知っている片仮名の言葉はありますか。 ○教室の中にある片仮名の言葉を探してノートに書きましょう。(5~10分) ○「テレビ」「ジャンパー」「スイッチ」を使って、文を作りましょう。 ○作った文をノートに書きましょう。</p>	<p>・iPad を片付け、教科書を開く。 ・教師の後に続いて、本文を読む。 ○「マリオ」「ゲーム」「テレビ」 ・教室内を見渡し、片仮名の言葉を探す。見つけたらノートに書く。 ・「誰が何をどうした」のような簡単な文を作る。 ○「ぼくは、テレビをみる。」 ○「ぼくは、ジャンパーをきる。」 ○「ぼくは、でんきのスイッチをいれる。」 ・ノートを用意し、文を書く。</p>	<p>○適宜、発音指導を行う。 □身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書くことができる。 ○文を手話表現できているが書けないときは、指導者が手話を読み取り、白板に文を書く。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>・まとめ ▽今日は、片仮名の言葉を何個見つけることができましたか。 ・宿題について ○家の中にある片仮名の言葉を10 個見つけて、ノートに書いてきてください。 ・あいさつをする。</p>	<p>○「○個」です。 ・宿題について知る。 ・教師と一緒にあいさつをする。</p>	<p>○助数詞「個」を使うように指導する。 ○宿題の内容について、尋ねて確認する。</p>

9 本時の評価

<p>○「かたかなをみつけよう」</p>	<p>○「ことばのクイズ」</p>	<p>○「かたかなの練習」</p>
<p>・身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書くことができたか。</p>	<p>・積極的にクイズに取り組み、言葉を覚えようとしたり、話をしようとしたりできたか。</p>	<p>・片仮名を書いたり、読んだりすることができたか。</p>

10 教材

①教科書（著作権の関係上資料なし）

②ことばのクイズ（イメージ）



③かたかなの練習（「ぷりんときっず <https://print-kids.net/> 」より）

11 座席配置図



